



【成績評価の方法・基準・割合】		到達目標										評価方法別の比率(%)	
成績評価方法	評価基準	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
試験(定期試験/授業内試験)	到達目標①②③④について、経済学の基礎理論が修得できているかを、筆記試験により評価する。	10	30	30	10								80
小テスト等	到達目標②③について、経済学の基礎理論が修得できているかを評価する。		10	10									20
レポート等													
討論・発表等													
授業への参画度													
その他()													
その他()													
その他()													
到達目標別の比率(%)		10	40	40	10								100

**【課題に対するフィードバックの方法】**  
 授業時間中、あるいはポータルシステムを通じておこなう

【教科書・参考書等】					
書名	著者名	出版社名	発行年	種別	必要度
Next 教科書シリーズ 経済学入門 第2版	楠谷清・川又祐編著	弘文堂	2019	教科書	必携
備考					

**【オフィスアワー】**  
 火曜日昼休み、本館8階の研究室。それ以外の時間でも、事前に連絡をもらえれば、対応可能です。kawamata.hiroshi@nihon-u.ac.jp

【実務経験を活かした実践的教育について】	
担当教員の実務経験の有無	無
実務経験に基づく実践的教育の内容	実務経験の内容 なし

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内容	
	経済学Ⅰを受講するにあたって	授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする	
1	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、授業のテーマや内容、授業スケジュール、成績評価の方法、参考文献の紹介を含めて、経済学の学習方法や研究方法について説明できる。	
	事前学修	シラバスをよく読む。教科書を入手して、各章の冒頭にある導入説明を読む。	120分
	事後学修	講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。	120分
	経済学の基本問題と経済学の課題(1)	経済と経済学の間接関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを理解する。	
2	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済と経済学の間接関係を学習し、経済学の主要テーマが何であるかを考察する。経済循環の構造を学習し、消費者(家計)、企業、政府との財や金の流れから経済全体の繋がりを考察する。市場経済・計画経済・混合経済の意味と各経済の違いを説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章1節、2節、3節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の主要テーマを整理する。	120分
	経済学の基本問題と経済学の課題(2)	市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを理解する。	
3	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場とは何か、財の価格と生産量はどのように決定するのか、価格が上がったり下がったりするのはなぜか、市場の需要曲線と供給曲線の意義を学習して市場機構の仕組みを説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、需要曲線、供給曲線を自分で描く。	120分
	経済学の基本問題と経済学の課題(3)	経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できるようになる。	
4	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、経済学の大きな流れとして、重商主義、重農主義、アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、ワルラス、マーシャル、ケインズ、フリードマン等の学説の特徴を学習し、受講生が説明できる。	
	事前学修	教科書(第1章5節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、経済学の歴史を整理する。	120分
	消費者行動の理論(1)	消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて学習する。	
5	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、消費者行動とは何か、また消費者行動の分析に用いる効用関数と無差別曲線の概念を身近な例を挙げて説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、効用関数と無差別曲線を自分で描く。	120分
	消費者行動の理論(2)	予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足度を最大化できるか最適消費の決定を理解する。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを学習する。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線を導出する。	
6	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、予算制約線の概念を学習し、予算制約線と無差別曲線を用いて、予算制約の下で消費者はどのように買い物をすれば満足度を最大化できるか最適消費の決定を説明できる。さらに、消費者の所得の変化や財の価格の変化が、消費者の財購入にどう影響するかを説明できる。また財の価格変化と消費者の購入量変化から需要曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書(第2章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、予算制約線を自分で描く。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内容	
7	生産者行動の理論(1)	生産者の行動とは何を意味するのかを学習する。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、生産者の行動とは何を意味するのかを説明できる。また、生産要素の投入量と生産量の技術的関係を表す生産関数、等量曲線の概念、技術的限界代替率の概念、生産可能性フロンティアの概念を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産者行動の目的を整理する。	120分
8	生産者行動の理論(2)	企業が生産要素を購入する費用に限りがある。その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を学習する。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を学習する。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、企業が生産要素を購入する費用に限りがあり、その費用で購入できる生産要素の組み合わせを表す等費用線を説明できる。等費用線と等量曲線から要素投入の最適条件を説明できる。さらに生産量と生産費用との関係を表す各種の費用関数を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、生産関数を自分で描く。	120分
9	生産者行動の理論(3)	最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について学習する。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線を導出する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、最適生産の決定を意味する利潤最大化の条件について説明できる。また財の市場価格変化と企業の各種費用曲線から企業の供給曲線の導出を説明できる。	
	事前学修	教科書(第3章5節、6節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、供給曲線を自分で描く。	120分
10	競争市場均衡(1)	市場の分類と各市場の相違点を学習する。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法を学習し、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析、について学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、市場の分類と各市場の相違点を説明できる。市場の需要曲線と供給曲線の導出方法、市場均衡の概念、部分均衡と一般均衡の概念、安定分析を説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、市場の分類を整理する。	120分
11	競争市場均衡(2)	経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を学習する。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因を学習し、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを考察する。	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、経済学における効率性の基準を表す余剰の概念と余剰分析を説明できる。また、市場の需要曲線、供給曲線のシフト(移動)の原因と、シフトによって市場価格、取引量に変化が生じることを説明できる。	
	事前学修	教科書(第4章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、余剰概念を整理する。	120分
12	不完全競争市場(1)	独占市場とはどのような市場をいうのかを学習する。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、独占市場とはどのような市場かを説明できる。完全独占市場における独占企業の特徴を完全競争市場における企業と比較して説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章1節、2節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、独占市場の概念を整理する。	120分

【授業計画】※日程について、複数の曜日・時限にて同授業を開講の場合は、併記を行っている。

回数	テーマ	内 容	
13	不完全競争市場(2)	価格差別の概念を学習する。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、価格差別の概念を説明できる。また独占が資源配分の非効率をもたらし、結果として、社会に損失をもたらすことを余剰概念を用いて理論的に説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章3節、4節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、価格差別の概念を整理する。	120分
14	不完全競争市場(3)	不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか学習する。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度を学習する。さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を学習する。	
	この回の到達目標	到達目標①②に関連して、不完全競争理論と独占的競争理論とはそれぞれどのような状態を想定した理論であるのか説明できる。また独占度の測定理論であるラーナーの尺度、さらに寡占市場の企業戦略を分析するためのゲームの理論を説明できる。	
	事前学修	教科書(第5章5節、6節)をよく読む。	120分
	事後学修	教科書と講義ノートを利用して、不完全競争理論を整理する。	120分
15	講義のまとめ	講義のまとめ	
	この回の到達目標	到達目標①②③④に関連して、初回からの講義内容を説明できる。	
	事前学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、ミクロ経済学の体系を考察する。	120分
	事後学修	初回からの教科書の各章と講義ノートを見直し、期末試験に向けて準備をする。	120分